

いのかしらこうえん
井の頭公園 (武蔵野市・三鷹市)

と かい こう えん あ つ わ た ど り
都会の公園に集まる渡り鳥



武蔵野市と三鷹市にまたがる井の頭恩賜公園は、住宅街の一角にある自然豊かな公園です。公園の中心にある井の頭池はわき水でできた自然の池で、井の頭公園は武蔵野の豊かな自然環境を活かしながら整備されてきました。

この井の頭池には、秋から冬にかけてたくさんの鳥が集まります。池のほとりには、かつての自然を取り戻そうと水深の浅い湿地が整備され、そこにヨシなど背の高い草が自然と増えてきました。また、公園内には雑木林もあり、ここには池の鳥などを狙ってオオタカが時々現れます。

【見られる生きもの】

ヒドリガモ	冬にやってくる渡り鳥。オスは頭が赤茶色で額のクリーム色が特徴。カモの仲間は、オスの方が派手な見た目の種類が多いです。
キンクロハジロ	こちらも冬鳥。後ろ髪のような冠羽が特徴。魚や貝、水の中に住む昆虫などを食べるので、泳ぎが得意です。
オオバン	黒い全身、白いくちばし、赤い目が特徴。水中に潜って水草などを食べますが、地上で食べ物を探す姿も。
カイツブリ	潜水が大の得意で、気づけばあっという間に水の中に。井の頭公園では近年、子育てをするペアが増えています。
ゴイサギ	幼鳥はホシゴイと呼ばれ、成鳥とは羽色が大きく異なります。
アオサギ	日本で繁殖する最大のサギ。河川や田んぼ、公園の池などによくたたずんでいます。
オオタカ	ハトなどを食べます。以前は里山の象徴でしたが、近年は都心の緑の多い公園や河川敷でも見かけます。



カイツブリ



アオサギ

身近なところにも貴重な自然があることがわかりましたか？これらは何もせず守られるものではありません。多くの人たちの環境保全に向けた様々な努力によって、失われた本来の環境を取り戻し、守ってきた歴史があります。このような取り組みをさらにひろげていくことが必要です。